

地理歴史科・公民科（歴史総合）学習指導案

1 単元名 市民革命

この単元は「2 内容」の「B近代と私たち」「(3) 国民国家と明治維新」に該当する。

2 単元の目標

- (1) アメリカ独立革命とフランス革命の歴史的意義と世界に与えた影響について理解する。
- (2) ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯について、フランス革命やナポレオンと関連付けて理解する。
- (3) アメリカ独立革命とフランス革命の歴史的意義とその影響について追究する。

3 単元の指導計画

(1) 単元の配当時間（全体6時間）

- ・ アメリカ独立革命 1.5時間
- ・ フランス革命 1.5時間
- ・ ナポレオンの帝国 1時間
- ・ 市民革命の世界的衝撃 2時間（本時1／2時間）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ アメリカ独立革命とフランス革命の歴史的意義と世界に与えた影響について理解している。	・ ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯について、フランス革命やナポレオンと関連付けて理解している。	・ アメリカ独立革命とフランス革命の歴史的意義とその影響について追究している。

(3) 指導内容及び評価計画（6時間）

（○…評定に用いる評価、●…学習改善につなげる評価）

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (1.5)	<p>【学習課題】<単元を貫く問い>「市民革命によって社会はどのように変わったか」</p> <p>【学習課題】<問い>「独立後のアメリカはどのような社会を目指したか」</p>	【ねらい】アメリカ独立革命がこの時期に起こった背景について理解する。	●		●	(B) アメリカ独立革命の背景を理解している。 (C) 個別に助言する。	ワークシート
第2次 (1.5)	<p>【学習課題】<問い>「革命後のフランスは自由・平等な社会になったか」</p>	【ねらい】フランス人権宣言の史料を読み取り、革命の意義を理解する。	○	●	●	(B) フランス人権宣言の史料を読み取り、革命の意義を理解している。 (C) 史料の要点を確認させる。	ワークシート
第3次 (1)	<p>【学習課題】<問い>「ナポレオンはどのような社会を目指したか」</p>	【ねらい】フランス革命やナポレオンの進出が他のヨーロッパ諸国へ与えた影響について考察する。		●		(B) 革命の意義である「自由・平等」がヨーロッパ諸国に与えた影響について、史料の読み取りが適切にできている。 (C) 史料の要点を示す。	ワークシート

第4次 (2)	【学習課題】<問い>「ラテンアメリカ諸国が独立運動へと向かう背景は何か」	●	○	(B) ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯を、フランス革命やナポレオンと結び付けて考察し、まとめている。 (C) 史料の要点を示す。	ワークシート
	ラテンアメリカ諸国の独立	【ねらい】アメリカ独立革命とフランス革命が世界各地に与えた影響について考察する。			

4 本時の学習

(1) 本時の目標

ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯を、フランス革命やナポレオンと結び付けて考察し、表現する。

(2) 教材 ワークシート

(3) 本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	前時の学習内容の確認	・ナポレオンにより、革命の成果である「自由・平等」の考え方がヨーロッパ各地に波及したことを振り返る。	
展開	ラテンアメリカの歴史	・史料をもとにクリオーリョを中心とした白人が支配する社会であることを確認する。 ・作図を通してクリオーリョ（白人）による独立運動について理解する。	●ワークシート【知識・技能】
	ハイチの独立	・フランス人権宣言とルヴェルチュールの言葉との共通点をグループで検討した結果を、自分の言葉でまとめる。	○ワークシート【思考・判断・表現】
まとめ	まとめ	・授業で分からなかったことを質問する。	

(4) 本時の評価規準

ワークシートの評価規準【思考・判断・表現】

・ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯について、フランス革命やナポレオンと関連付けて考察し、表現している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・史料を比較し、ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯をフランス革命やナポレオンと関連付けて表現することができる。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・史料を比較し、ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯をフランス革命やナポレオンと関連付け、因果関係を具体的に示しながら表現することができる。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯についてアメリカ独立革命とフランス革命やナポレオンと関連付けて考察できていない。→史料の中に出てくる共通する言葉に着目させ、関係性に気付かせる。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

今回授業を行ったのは全員が外国にルーツをもつ生徒で構成された昼間定時制のクラスである（生徒の国籍はフィリピン、バングラデシュ、ブラジル。授業で使用する外国語は英語とポルトガル語）。これまでの生育歴や日本語能力に大きな差があり（日本語による日常会話が難しい場合もある）、指導者の日本語による説明が理解できない生徒もいる。特に、歴史的事象や歴史的用語の説明では、説明で使う言葉自体が抽象的であるために、その意味を理解することが難しく前向きに授業に取り組むことができない悪循環に陥っていた。したがって、ワークシートや視覚資料には必ずルビを振るとともに日本語と外国語を併記した（生徒の母語に翻訳した言葉や文章について日本語支援員に確認したところ、日本語の意味と概ね齟齬がないことが確認できた）。そうすると、今まで授業に対して後ろ向きであった生徒たちに、グループでの話し合いに積極的に参加し、またワークシートに自分の答えを書くというような変容が見られた。

今回の実践では、フランス人権宣言や当時の社会を描いた画像、ルヴェルチュールの発言などについて、英語とポルトガル語の翻訳版を使用して史料を読み取らせた。法律的・抽象的表現などの難解な部分もあったが、生徒の母語で書かれているため、史料を繰り返し読み込み、グループ内で意見を出し合って理解を深めようとする意欲的な姿が見受けられた。

(2) 課題

今回、言語の壁をなくすため、生徒の母語を併記する工夫をしたが、ワークシートの準備にはとても時間がかかった。したがって、1時間の授業で教える内容を精選し、短く平易であっても授業の内容が的確に伝わる言葉を考える必要がある。一方、授業で頻繁に使用する日本語（例えば「支配する」や「統一する」など）については、生徒に語句の意味を調べさせることで、生徒が日本語を学ぶ機会としたい。

また、母語を併記して内容を理解できたとしても、次に自分の考えを日本語で表現することができない生徒が多くいた。母語で考えはするものの、日本語での適切な言葉や表現が分からず、書くことをあきらめてしまったようである。これらの背景には、日本語と母語の両方の読み・書きに困難さを抱えるダブルリミテッドや境界知能、強い障害特性、そして生徒本人の学ぶ目的や意欲などさまざまな理由があると考えられる。そこで、そのような生徒に対しては、日本語とともに母語を併記するようアドバイスをしたが、逆に生徒が母語で記入してきた内容を指導者が理解できず、知識の理解度や主体的に学習に取り組む態度を評価する難しさを痛感した。今後は生徒の実態や卒業までに身に付けさせる力（目標）を考慮しながら、生徒の自己評価を見取ることや、生徒の授業の振り返りを記録させ、それを評価する方法を実践していきたい。

6 参考文献

- ・Koster, Henry (1817). *Trave in Brazil*, Longman
- ・Blancpain, F (2004), *la colonie française de saint-domingue: de l'esclavage à l'indépendance*, Karthala, p.128
- ・Conseil constitutionnel, “*Declaration of human and civic rights of 26 August 1789*”
(2023年10月19日閲覧)
https://www.conseil-constitutionnel.fr/sites/default/files/2019-03/20190304_declarationhumanrights_0.pdf
- ・Federal de Santa Maria Universidade, “*DECLARAÇÃO DOS DIREITOS DO HOMEM E DO CIDADÃO DE 1789*”
(2023年10月19日閲覧) <https://www.ufsm.br/app/uploads/sites/414/2018/10/1789.pdf>
- ・白地図専門店 <https://www.freemap.jp>